

11 番上野議員

上野議員／こんにちは。

11 番上野淑子、登壇の許可を得ましたので、ただいまから一般質問をいたします。

先ほど、熱い討論があった議会ですが、私も興奮しております。

でも頑張って、市民に付託された議員として皆さまの意見をお伝えしようと思います。

よろしく申し上げます。

きょうは子育て支援について、いろいろ質問をしたいと思います。

まず1番はじめには、先日も出ていましたが、放課後児童クラブの今後について。

そして次に児童虐待について、質問をしたいと思います。

それからみんなのバスについて。

最後に文化財の保存について質問をしたいと思います。

ではまずはじめに、子育て支援の中の1つですが。

今、武雄市は前進、前進、いろんなことに取り組み、皆さんから注目を浴びているところ
です。

この樋渡市政を引き継ぐ子どもたちのために、私たちは行政として、地域住民の私たちと
して、どのようなことをしていけばいいのか。

お尋ねしながら、提案もしたいと思います。

まず放課後児童クラブについてです。

近年、共働きの人が増え、それから核家族も増えて、武雄市も都会とあまり変わらない状
態になっています。

子どもたちも、帰ったら誰もいない、一人でいなくてはいけないという状況もあります。

その中、放課後児童クラブは、本当に重要な役割を果たしています。

全国的には、この10年間で1.7倍もの利用児童が増えたと報告をされていますが、私たち
の武雄市においては、放課後児童クラブの実態はどういうものなのか。

場所、それから放課後児童クラブにかかる個人負担の費用についてもお聞きいたします。

議長／蒲原こども部長

蒲原こども部長／武雄市の放課後児童クラブの現状についてのお尋ねでございますが、放
課後児童クラブは、母子家庭の小学校3年生までを対象として開催されていて、市内11小
学校に13のクラブを開設しております。

今年度の登録者数は、全体で610名。

平日は各クラブ、20～60人の児童が午後6時まで利用している状況です。

土曜日にも利用があります。

市内では御船が丘小学校、朝日小学校、東川登小学校、山内のひまわりクラブ、北方のあ

おぞら児童クラブのほうで土曜日開催されています。

そして利用料金、1人目は2000円。

2人目は1000円。

3人目からは無料となっています。

ただし、非課税世帯は減免をしております。

現在のところ、待機児童はいない状況です。

議長／11番上野議員

上野議員／市内においては待機児童もなく、施設も立派に育ち、幸せな子どもたちと思います。

今は現在、1～3年生までの児童ですが、27年度からは変わって、1～6年生までになります。

その場合、もうすぐですので、それに対応するような施策、どのような準備、対応をするのか。

6年生の親からもどうなるかと聞いているので、お聞きいたします。

議長／蒲原こども部長

蒲原こども部長／1つだけ、先ほどの答えに付け足しをさせていただきます。

現在、児童福祉法で、おおむね10歳ということで3年生まで対象となっていますが、特別に必要という子どもは4年生以上の方もお預かりするということがございます。

今までもそういう経緯がございました。

その中で、平成27年度から対象が6年生までになるという計画がございました。

現在、子育て3法によりまして認知調査をいたして、今年度中に回収、分析をする予定です。

調査結果をもとに、児童クラブの利用者数を推計して、必要な人の手配、指導員の手配、施設の確保を考えていきたいと思っております。

議長／樋渡市長

樋渡市長／3年生まで原則ですよね。

3年生までが対象になるのは理解できるが、一気に6年生までとなると、私自身はいいのかなと思います。

一方で、スポーツ少年団の活動もあるわけですよ。

だから、これはあまりにも…。

アンケートを取れば、6年生まではありがたいと思うんですが、さっき副市長が「私が小学校のときは飯ば炊きよったばい」って。

あまりおいしくなかったと思いますが。

そうだと思うんですよ。

だから何か、保護しよう、保護しようって…。

必要な保護は大切だと思いますが、これは少し行き過ぎなところが。

さきほど部長が申し上げとおり、今でも3年生までが原則でも、いろんな家庭の事情で、4、5、6年生まで認めているわけですね。

これを一気に広げるのは、私は実際どうかなと思っております。

ですがまず、たぶん国がわっと押しつけて、今、文科省も…。

前はそうでもなかったが、このところ押しつけ省と名前が変わってきたので、本当に何でも押しつけるで、ここは公明党に頑張ってもらいたいと思います。

議長／11番上野議員

上野議員／市長がおっしゃるように、そうかもわからないし、私、今初めて、4年から6年までのそのときに応じて、一緒に行っていて初めて聞いて、よかったと思っています。

それはいいんですが、そういう施設をされると思うが、認知調査をされたら、その中でいらないとかも出るかもしれません。

行政としては、大方の目安です、今までの人数は増えると思いますか。

もう1つ、増えた場合は、場所はどうかという案まで考えていらっしゃるのか、お尋ねいたします。

議長／蒲原こども部長

蒲原こども部長／ニーズ調査、なかなか推測が難しいですが、今はそこまで、法が変わる前の段階で、県内の市町村で広げているところがございます。

そういうところの話を聞くと、それほど、4年生以上の子どもがたくさんということではないようです。

県内では2カ所程度のところですが。

それと、あとの対策というか、対応についてということでございますが、確かに基本的に、学校施設およびいろんな特別教室を考えての、学校施設等を利用するという形を考えておりますが、結果を見てみないとなかなか判断はできかねるという状況です。

議長／樋渡市長

樋渡市長／放課後児童クラブはみんないいか思っているが、実際に私、何度か行ってみたこともある。

学校と放課後児童クラブは、学校は教育委員会じゃないですか。

放課後児童クラブは答弁しているように、厚生労働省の所管の事業をやっていて、別なんです。

したがって、おどろくべき現象がありまして、どういうことかという、放課後児童クラブという場所に押し込められちゃうんです。

だから図書館は一般的に使えないんですね。

ある小学校でびっくりしました。

ついたてができていますよ。

「何？」と聞いたら、ここから先に行ってはだめと。

しかも、運動場は使えるのかと聞いたら、おそらく使えないんですよ。

私も経験がありますが、少年野球団が使うから。

変に使うと危ないということが出てくるので、小学校朝早いので、夕方まで、学校という場に押し込めることが、小さい子ならまだしも、6年生までそういう状態が続くということについては、僕は疑問です。

教育委員会に言いたいのは、図書館は使っていいと思います。

運動場も安全とか確保できれば、使わないと、同じ場所にいることの、本当の…。

なんて言うんでしょうか。

何度も言ったことがあって、こんな狭いところにこんなに人がいるのかというところがあります。

今度6年生になったら、どれくらい増えるかは疑問もあるが、ますます人口密度が高いところになると、私はいかがなものかと。

それがたまにならいいですが、ずっとって。

しかも土曜日までとなると、本当に、事業として必要性は認めますが、やりすぎはよくないと思いますね。

議長／11番上野議員

上野議員／本当にその通りだと思います。

私も、放課後児童クラブには何回も行きました。

前にも質問したと思いますが、本当に狭いところで、これでいいのかなと。

一人ひとりがどれくらいスペースが決まっている。

その範囲がありますということをお聞きしましたので。

放課後児童クラブについて、意見を私たちが言って、それでいけるものなのか。
国策として6年生までと言われているのを守っていかないといけないのか。
そこをはっきりとして、意見を言いたいと思います。
そこはどうなのでしょう。

議長／蒲原こども部長

蒲原こども部長／今、国のほうではそのところの議論がいろいろあるようです。
書かれておりますのは、6年生までは絶対に受け入れなければいけないという書かれ方ではなくて、対象を広げているというような書かれ方です。
そのところの、文部省あたりでも、あちらこちらから意見が出てきていると思います。
議論があるようです。
そのところはどうなるのか、まだ推測はできませんが、必ずしも、先ほどそうなったときの対策というのも含めまして、いろんなほかの児童教室とか、ほかのプログラムもございます。
そう言ったところもあわせて検討していくことを、ぜひしていく必要があるという考え方です。

議長／樋渡市長

樋渡市長／これは大切な件なんで、あえて補足しますが、これは6年生が中心となると思っています。
議論の流れを聞いていると。
そうなったときに、自治体がどう反応するかというと、6年生までが対象と国がいうと、6年生までしなければならないと。
われわれ真面目なんですよ。
ですので、そうなるとしなきゃいけないとなるし、親御さんたちもマスコミ報道を通じて、これ6年生までできるなら、じゃあやろうとなるので、これはイコール義務というふうになるんですよ。
だから、まだ制度設計が本決まりになってないところで、私も所管に直接申し上げようと思っておりますが、これこそ自治体に任せてほしいです。
いろんな地域であったり、6年生までしないといけないなら、それは6年生まですればよいし、私どものように、僕は例外的に、文句は通さないで、例外的に6年生までできることもあってもよいと思うし。
だから、それを選ばせるメニューをぜひしてほしいと思います。
きのう、松尾議員にもお答えしたように、きょう新聞に載ってましたが、教育委員会の権

限が首長に移るじゃないですか。

これは恐ろしいことなんですよ。

首長に移って、かつ教育委員会が審議会になり下がり、事務局長に教育長になるって。

指揮命令になる。

今、対等なんですよ。

独立の機関で、対等にあるのですが…。

宮本議員、話をさせてください。

ですので、制度上そうです。

そういったものもあってもよいし、教育委員会と首長が独立してもいいというふうに、ぜひ、メニューを出して欲しいと思います。

これは本当に慎重にしないと、ますます行政コストがあがって行って、上野議員さんからもご指摘があったように、狭いところにさらに狭くなりかねないので、われわれとしても意見をちゃんと言っていこうと。

武雄市議会においてもいろんな意見を、決議であったり、いろんな意見書であったり、この件、大事な話なので、お出しただけであればありがたいと思います。

議長／11番 上野議員

上野議員／ありがとうございます。

私もそのように思います。

そういうふうにも、議会で改めて続けたいと思います。

代田先生、ちょっと顔が見えなくて、ごめんなさい。

私たち田舎の学校と違って、先生は都会におられたので、放課後児童クラブについての考え方をちょっとお聞きしたいと思います。

急でしたけど、ごめんなさい。

議長／代田教育監

議長／宮下つながる部長

宮下つながる部長／みんなのバスについて、つきましては、無償実験運行として、平成 22 年度 9 月から平成 25 年 3 月。

この間、2 年半程度になります。

これで実施して、利用者の数ですが、述べ 3 万 7810 人の利用がございました。

3 年間の利用費の合計は 3230 万程度になります。

1 年間に換算すると、1200 万かかったということです。

この財源は、緊急雇用対策事業という、国の事業が合ったのでそれを活用しました。
また、事業を実施するにあたり、関係の区長さんをはじめ、いろんな関係者の方の御協力を得たことをこの場をお借りして感謝申し上げます。
この事業ですが、みんなのバスという名前のおり、武雄独自の事業です。
これが、今年の4月から有償化ということになりましたが、有償化に際しては、利用者の皆さまにアンケートをとって、そういう中で、有償化してでも、やはりバス事業を運行してほしいとそういう切実な声もあったのが事実です。
将来的にも持続可能なバス事業の制度と。
行ってみれば武雄モデルと。
現在、有償運行を4月から運行して約半年経ったという状況であります。

議長／11番 上野議員

上野議員／わかりました。
有償になってから、利用状況はどういうふうに変ったんでしょうか？

議長／宮下つながる部長

宮下つながる部長／有償後、実績ということですが、今年の4月から9月までの半年で、その利用者数については6390人、24%減になります。
平均乗車人数という形で、1便につき何人乗ったかと申しますと、1.9人で、無償時から比べると1.1人減少しています。
その減少は目的地まで比較的近い場合もある、そのときに歩いて行くことも考えられます。
有償化を始めるに辺り、どの程度、減少するであろうかという想定しましたが、ほぼ、想定範囲内と考えております。

議長／11番 上野議員

上野議員／24%の減、この声が私に届いています。
私たち、みなさん普通の人…
普通の人といったら語弊があるかも知れませんが、200円くらい出してよかろうもんと。
たかだか200円と言われる人もいますが、本当に、200円の大事さ。
私に言われた言葉は忘れることはできないです。
往復400円、1食分のおかず代。
それを考えると、乗ろうとしても乗られん、いつも乗らんもんねって。

乗れるときは楽しかったって。

でも、たかだか400円、されど400円という金額の重さをわかって欲しいです。

本当に先ほど、子育て支援について***。

片一方、高齢化社会のみんなのバスについて、本当に考えてほしい。

これは提案として、市長、いいですか。

では、私は、そういう提案をしたいと思います。

本当にみんなに優しい。

市長がおっしゃるような、みんなで楽しい武雄市にするために、何とかして、無料とは皆さん、おっしゃらないですね。

それは気の毒だと。

せめて、半額の100円バスにはならんとやろか、という意見をいただいております。

100円バスにしたときに、どれくらいの費用、これは今の減になるかわかりませんが、それを考えていただけないか。

みんなの幸せを乗せるバスになるように、提案をしたいと思います。

議長／樋渡市長

樋渡市長／議員、ちょっと誤解があるようですが、私今そこで無駄口いっているわけじゃないです。

質問を伺いながら、どういうふうにも前向きに答弁しようかと考えて協議をしているので、それは誤解がないようにしてほしいです。

確かに、400円は高いと思います。

どこかにいったら必ず帰ってこないといけないので、高いと思います。

自分がその立場、年齢になったときに、高いと思います。

そのときに、先ほど議員のご指摘もあったように、ただはだめだと思うんですね。

もし必要ならば担当部長から答弁させますが、400円にしても、ものすごいお金がかかっているんです。

これは、実際、バスをお使いにならないご高齢者の方々、あるいは、私たちのようなものも、しっかり支えているんですね。

ですので、そこはぜひご理解していただきたいですね。

400円であったにしろ、物凄い出費になっていて、本来ならば、私も聞いたことがあるんですよ。

一部のみんなのバス…、みんなのバスじゃないじゃないかと。

自分たち地区は通ってないんだよって。

何で、そういうふうにあの地区だけ特別扱いするんだって、私も矢のように言われているんです。

私は、市政を司る立場です。

弱い立場、弱い地域、周辺部の意見を十二分に聞く必要があるということを、私ご理解をしていただきたいと思います。

先ほど協議をしていましたが、皆さんを、往復、片道 100 円というのは無理です。

財政的に言っても。

ですが、例えば、非課税世帯があるじゃないですか。

どれだけっていうのはわれわれも考えなければいけないが、本当に所得のない方々を中心に、バスを作りたい、ということは議員のご指摘をいただいて思いました。

ご高齢者の方々でも所得のある方がいらっしゃいます。

いらっしゃいますし、これは必要、とつても言いよという人もいらっしゃるんですね。

そうはいいながら、一方で、議員からご指摘あったように、往復 400 円は高いよと。

いっぺん、精査をさせてもらって、そんな所得の実際低い方々を中心に、往復 200 円で行けるように、制度設定をしていきたいと思えます。

いずれにしても、みんなのバスは使ってもらってなんぼです。

1 便に 1.9 人はみんなのバスとは言えないです。

1.9 人ならワンマンバスになってしまいますので、そこはしっかり考えたいと思えます。

議長／11 番 上野議員

上野議員／市長の優しい意見を聞いて、お礼を申し上げたいと思えます。

先ほどは失礼しました。

本当にそうしていただけると、たくさんの方が利用していくのではと思えます。

ただ、本当におっしゃったように、みんなのバスなので、みんなが利用できるように。

たくさんの方がバスが起業されて、たくさんの方がバスが市内をまわる武雄市になればと思えます。

ぜひ、早急にすすめていただきたいと思います。

次、何年前か前も質問しましたが、2 年前ですかね。

みんなのバスをただまっすぐ走っているから楽しい絵でも描くのはどうですか、と提案しましたが、それから 2 年経ちましたが、どうなってますか。

議長／樋渡市長

樋渡市長／申し訳ございません、撤回したいと思えます。

コストを考えたときに 1 台につき 30 万かかります。

考えた場合に、ラッピングの 30 万があれば、それを利用、価格の低減に結び付けるとか、利用価格のね、軽減に結び付けるとか、バスも数台ありますので。

あるいは、実際に乗っておられる方々の福祉の維持向上につながるとかね、そこに当てた

と思いますので、撤回のお詫びをしたいと思います。

議長／11 番 上野議員

上野議員／今、値下げをしてください、30 万出してくださいという提案があります。

テレビを見られた方々に奇特な方がいるかもしれませんので、期待しております。

本当に、楽しいみんなのバスになるように、望んでおります。

最後になりなすが、何年か前から質問しております。

文化財保護の徹底について。

文化財、産業遺産とこの前だしたと思いますが、北方町の西杵の炭鉱についてです。

24 年の 9 月に私が一般質問しましたときに、その前に、一般質問したときには、危ない、パネルにでもしてとって置くようにしましょうと返事をいただいております。

それから 1、2 年経って、私が去年 9 月に質問しました。

写真をうつしたと思いますが、草ぼ一ぼ一でした。

そのときも、なんとかしなくてはということで、予算を計上したと思いますが、どうなったのかなど。

24 年 9 月のそのときの、最後の言葉だけを読ませていただきます。

いずれにしても、あのままの状態というのは、許されるものではありませんので、お話がありましたように、対処していきたいと思っております、と書いております。

どうして、できなかったのかをお尋ねします。

議長／白濱教育部理事

白濱教育部理事／平成 20 年の 9 月議会の終了後に、北方町の地元のご意見から 11 月に区長会、自治公民館町会、北方の歴史研究の代表者の皆さんにお集まりいただきまして協議をしていただいております。

会議の中では、安全性の問題から、現時点では廃棄というか、やむなしの検討もいただいております。

しかし、炭鉱町北方の歴史として、大型機械等の保存やパネル等の設置などの充実をはかってほしい、という意見もいただいております。

大型機械の炭鉱資料は、現在県の所有でございまして、武雄市から買い置きまして、保存整備について、県に要請を行っております。

県の関係各課の協議、調整を行いまして、現在、正式な回答待ちの状況でございまして。

議長／11 番 上野議員

上野議員／非常に言い方かもしれませんが、2年半経っても、ただいま検討中です。

私は、これははしなくてはいけないと思うんです。

先ほど、安全面について、とありましたが、実際皆さんも行かれたら、あれ危なくないとは言いません。

危ないです。

その面からでも、きちんとしてはいけないのに、武雄市ともあろうものが、2年半もそのままに放っておかれているのは、議員として、自分の力として、なさけなくなります。大きなものを、先ほどおっしゃってますよね、歴史があつて伝統があつてこそ、今がある。いにしえがあつてこそ、今の市があるんです。

前回も言いましたが、何でも残すということはない。

どうぞ市のほうでお金はあまりかからなくて、それでも町民の人たちが、残しておきたい、その気持ちを汲んでいただければ、それでいいですということで、パネル化にして保存しますとお聞きしたと思います。

パネルにするのにそんなに時間かかるのかと、見るたびに悲しくなりますが、どうにもならないんですか？

もう一度お聞きしたいと思います。

議長／樋渡市長

樋渡市長／します。

議長／11番 上野議員

上野議員／はい。

みなさん、聞いておいてほしいと思います。

この件についてはもう言わないと思いますが、きちんとして欲しいと思います。

懐かしいものをしてほしいと思います。

これはしないとわかりませんが、パネルをどこに展示するか、私たちの間では、四季農家(?)の資料館に展示してはどうかという話がありますが、これはご意見だけを聞いておきたいと思います。

議長／樋渡市長

樋渡市長／先ほどの、しますというのは、パネルを大量に作ります。

けっこうかかります。

どこに展示するかというと、おそらく、今の武雄市の現状を考えた場合、武雄市図書館が

一番だと思うので、パネルにしたときに、必ず来年のどこかのタイミングで、武雄市図書館において、北方でご苦労されている方がいるのはよくわかります。

パネル写真展を開催したいと思います。

人の来るところで、昔の蘭学館のようなところでしても意味がないんです。

それよりも、今の企画蘭学展示室みたいにしっかりとする。

併せて、関係する本も展示するということではしていきたいと、このように考えていますが、よろしいでしょうか。

議長／11番 上野議員

上野議員／本当に、見えるところに分けてくださったことには感謝いたします。

1日でも早くパネルになること、あそこがきれいになることを願っています。

一般質問を終わり…

議長／樋渡市長

樋渡市長／1つ言い忘れていました。

パネルとなると、そこにしか行けないじゃないですか。

実際、ご高齢の方もいますが、私の両親はどうやって見ているかという、スマートフォンやiPadとかで見ているので、そうすると結構何千枚というパネル展示ができるわけです。だから、これで見れるというふうにしたいと思いますので、そうするといつでもどこでも。印刷もできますので、そういう実物のパネル展と、もう1つは、インターネットを介して、いつでも見れるようにしていきたいと思います。

北方出身の方で、昔炭鉱に勤められていた方が世界中にけっこういるじゃないですか。

そういう方が、場所とか時間とか関係なく見れる環境がありますので、これはICTに詳しい代田教育監にお任せしたいと思います。

議長／11番 上野議員

上野議員／遠くにいる友達にも伝えたいと思います。

これで一般質問を終わります。

議長／以上で、11番 上野議員の質問を終了させていただきます。

以上で、本日の日程はすべて終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。お疲れ様でした。